

「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく 木津川上流部の取組方針における

令和6年度の取組

■各取組の進捗状況

令和6年度末時点

取組項目	進捗率
1. ハード対策の主な取組	
①洪水を河川内で安全に流す対策に関する事項	79%
②危機管理型ハード対策に関する事項	100%
③内水対策に関する事項	50%
④避難行動、水防活動に資する基盤等の整備	20%
⑤流出抑制に関する事項（洪水、土砂、流木）	73%
2. ソフト対策の主な取組（①逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組）	
①情報伝達、避難計画等に関する事項	63%
②平時からの住民への周知・教育・訓練に関する事項	63%
③円滑かつ迅速な避難に資する施設等の整備に関する事項	93%
3. ソフト対策の主な取組（②氾濫による被害の軽減、避難時間の確保のための水防活動の取組）	
①水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する事項	71%
4. ソフト対策の主な取組（③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための取組）	
①排水活動及び施設運用の強化に関する事項	64%
②土地利用に関する事項	0%
5. 土砂災害に対するハード対策に関する取組	
①防災施設の整備等	57%
6. 土砂災害に対するソフト対策に関する取組	
①土砂災害防止法に基づく事項	86%
②土砂災害に対する情報伝達、避難計画等に関する事項	76%
③土砂による被害の軽減、避難時間の確保のための防災活動の取組に関する事項	69%
④一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための復旧活動の取組に関する事項	43%
7. 複合災害に対するソフト対策：逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組 など	
①複合災害に対する情報伝達、避難計画等に関する事項	67%

※なお、表中の進捗率は、各機関からのアンケート回答をもとに「実施予定」と「実施済・実施中」の和（機関の数）を分母、「実施済・実施中」を分子とした割合。

目次

伊賀市……………	2	水資源機構関西支社 木津川ダム総合管理所	
山添村……………	2	……………	13
宇陀市……………	3	津地方気象台……………	15
御杖村……………	4	奈良地方気象台……………	15
笠置町……………	4	国土交通省 近畿地方整備局 木津川上流河川事務所	
三重県……………	5	……………	16
奈良県……………	9	国土交通省 近畿地方整備局 紀伊山系砂防事務所	
京都府……………	10	……………	20

○田んぼダムの整備

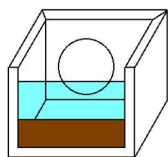
課題対応: G5-1(R5-2)

【伊賀市】

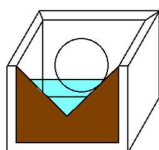
【主な整備内容】

水田の落水口に流出量を抑制するための排水調整板を設置することで、雨水貯留能力を人為的に高め、大雨時に水路や河川の水位の急上昇を抑えることで、下流域の湛水被害リスクの低減を図る。
令和6年度から3組織が実施。

通常の落水口
そのまま河川に流れる。



排水調整板を設置
そのまま河川に流れる。



取組状況の様

実施主体
担当部署

農村整備課

R6年度
進捗状況:★

取組概要

排水調整板の設置を行う。

取組内容の工夫点・課題・留意点

課題として排水調整板を設置し雨水貯留量が増えることにより、畦畔崩落の被害の恐れがあるため、実施してくれる組織が少なく田んぼダムの効果が高まらない。

取組による効果

大雨時に水路や河川の水位の急上昇を抑えることで、下流域の湛水被害リスクの低減が図れる。

活用可能な制度等

多面的機能支払交付金事業の加算措置「水田の雨水貯留機能の強化(田んぼダム)を推進活動」

1期目 10a当: 400円の加算
2期目以降 10a当: 300円の加算

1. 住民参加型の避難訓練の実施状況、今後の予定等の共有

2. 避難訓練(広域、自治会単位)の実施

○関係機関や消防署、山添村消防団、日本赤十字社と共同で地区防災訓練を実施

課題対応: G7-10(R9-26)
G15-2(R9-11)

【山添村】

実施主体
担当部署

山添村、山添消防署、山添村消防団、日本赤十字奉仕団山添分会

R6年度
進捗状況:○

取組概要

大雨や地震を想定し、避難所までの避難訓練を実施。また、避難所ではAED講習や消火器訓練、日本赤十字奉仕団による炊き出し訓練を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

地域を分けて年1回開催。消防署や赤十字社との協力を得て、訓練を行った。

取組による効果

地域住民による防災意識の向上や関心をつかむ訓練となった。

活用可能な制度等

特になし。

○指定緊急避難場所「ぬく森の郷」を使った
避難所開設・運営訓練の実施

課題対応：G7-10(R9-26)

【宇陀市】



居住スペース設定



簡易トイレ作成



段ボールベットの組み立て



パーティションテントの設営

実施主体
担当部署

宇陀市危機管理課

R6年度
進捗状況：○

取組概要

災害発生時の避難所開設を想定して、「避難所の受付と避難誘導訓練」「避難者エリア設定と資器材取り扱い訓練」を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難が長期化した場合、避難所の運営には市民の協力が必要であるため、計画的に訓練を実施する。

取組による効果

避難所運営に係る知識の一部を知っていただき、集会所や公民館のような自治会レベルでの自主避難所開設に役立てる。

活用可能な制度等

1. 洪水ハザードマップの策定・周知
2. 住民一人一人のマイタイムライン、マイ防災マップの作成促進

○「ブルーシート(災害への備え・避難計画)」の作成

課題対応：G7-2(R9-14)
G7-9(R9-15)

【宇陀市】

災害への備え（避難計画）

表面

災害への備え（避難計画） 2024年10月1日作成
※この計画は、災害に備えるための準備・避難行動の目安となるもので、必ずしも災害発生時に必ずしも実行されるものではありません。

氏名	住所	電話番号
宇陀 太郎	宇陀市 〇〇〇〇	0745-82-0000

1. 自宅周辺の危険箇所を確認
(1) 洪水ハザードマップを確認し、自宅周辺の危険箇所を確認する。
(2) 自宅周辺の危険箇所を確認し、自宅周辺の危険箇所を確認する。

2. 避難経路を確認
(1) 自宅周辺の危険箇所を確認し、自宅周辺の危険箇所を確認する。
(2) 自宅周辺の危険箇所を確認し、自宅周辺の危険箇所を確認する。

3. 避難場所を確認
(1) 自宅周辺の危険箇所を確認し、自宅周辺の危険箇所を確認する。
(2) 自宅周辺の危険箇所を確認し、自宅周辺の危険箇所を確認する。

4. 避難用品を確認
(1) 自宅周辺の危険箇所を確認し、自宅周辺の危険箇所を確認する。
(2) 自宅周辺の危険箇所を確認し、自宅周辺の危険箇所を確認する。

5. 避難計画を確認
(1) 自宅周辺の危険箇所を確認し、自宅周辺の危険箇所を確認する。
(2) 自宅周辺の危険箇所を確認し、自宅周辺の危険箇所を確認する。

表面

非常持出品／備蓄品（2024年10月1日作成）

1. 非常持出品

- 食料品（缶詰、乾菜、レトルト食品、ドライフルーツなど）
- 飲料（缶詰、乾菜、レトルト食品、ドライフルーツなど）
- 衛生用品（トイレ、洗面、風呂、洗濯など）
- 防寒用品（防寒、防寒、防寒など）
- 照明用品（照明、照明、照明など）
- 防災用品（防災、防災、防災など）
- その他（その他、その他、その他など）

2. 備蓄品

- 食料品（缶詰、乾菜、レトルト食品、ドライフルーツなど）
- 飲料（缶詰、乾菜、レトルト食品、ドライフルーツなど）
- 衛生用品（トイレ、洗面、風呂、洗濯など）
- 防寒用品（防寒、防寒、防寒など）
- 照明用品（照明、照明、照明など）
- 防災用品（防災、防災、防災など）
- その他（その他、その他、その他など）

実施主体
担当部署

宇陀市危機管理課

R6年度
進捗状況：○

取組概要

全市民作成を目指し、自主防災組織や連合自治会等の防災講話で、当該地域のハザードマップを拡大詳細にして浸水害や土砂災害の危険を周知し、必要な備えを伝え、それぞれの避難計画を作成する。また、自宅に持ち帰り、家族と話し合っ、さらに詳細な避難計画を家族単位で話し合っしていただく。

取組内容の工夫点・課題・留意点

64歳以下の市民向けに「ブルーシート」と称して、避難行動要支援者個別避難計画に合わせてマイタイムライン（個別避難計画）を作成いただくことで、将来的に高齢者などの個別避難計画に移行でき、自分だけでなく、家族も巻き込んだ防災意識の高揚につながる。

取組内容の工夫点・課題・留意点

高齢者等の避難行動要支援者に関する個別避難計画作成が難航する中、若い世代からマイタイムライン（個別避難計画）を作成いただくことで、将来的に高齢者などの個別避難計画に移行できる。また、自分だけでなく、家族も巻き込んだ防災意識の高揚につながる。

活用可能な制度等

1. 住民参加型の避難訓練の実施状況、今後の予定等の共有

2. 防災リーダー育成の支援を実施

○住民参加型の避難訓練の実施

課題対応：G7-10(R9-26)
G7-11(R9-27)

【御杖村】

【主な整備内容】



訓練の様子



実施主体
担当部署

御杖村 総務課

R6年度
進捗状況：○

取組概要

地震による建物の倒壊、土砂災害、水害を想定し、最寄りの指定避難所まで避難を行いました。また、消防署隊員を講師とした防災講義・煙ハウス体験・消火器訓練を実施しました。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難訓練実施一ヶ月前に自治会役員を対象に避難訓練説明会を行い、多くの方の訓練参加の周知を依頼しました。

取組による効果

住民一人一人の防災意識の向上

活用可能な制度等

—

避難訓練(広域、自治会単位)の実施

○町内の自主防災組織と町の共催による防災訓練の実施

課題対応：G15-2(R9-11)

【笠置町】



救出・救護訓練



初期消火訓練



防災組織醸成訓練

実施主体
担当部署

笠置町総務財政課

R6年度
進捗状況：○

取組概要

自主防災組織の防災力向上と防災関係機関との連携醸成を主な目的として、町との共催による防災訓練を実施。

- ・初期消火訓練
- ・救出・救護訓練
- ・防災組織醸成訓練 など

取組内容の工夫点・課題・留意点

消防機関や郵便局の協力を得て、実際に防災資機材を駆使した火災や土砂災害等を想定した訓練をおこなうことで、知識の醸成、技術力向上、関係機関との連携強化を図る。

取組による効果

地域全体の防災意識向上に繋がる。

活用可能な制度等

特になし。

○木津川(指定区間)大規模特定河川事業

課題対応: G1-1(R1-1)

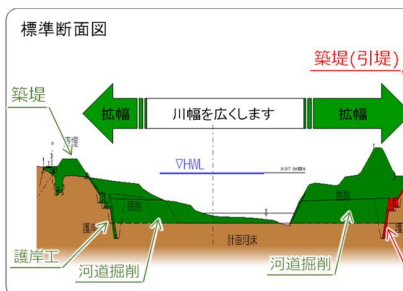
【三重県】

【主な整備内容】

令和6年度の実施内容

- 築堤護岸工
- 樋門工

木津川大規模特定河川事業

実施主体
担当部署三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所R6年度
進捗状況:○

取組概要

木津川(指定区間)沿川における浸水被害の軽減を図るため、河道拡幅、河道掘削等により流下能力の向上を図る。

取組内容の工夫点・課題・留意点

井堰等、既存の横断構造物の改築が必要となる。

取組による効果

上野遊水地事業及び川上ダム整備事業と上下流一体となった整備により、流域全体の治水安全度の向上と、流域住民の安全安心を確保する。

活用可能な制度等

河道内樹木の伐採や堆積土砂の除去等
(多数の家屋や重要施設等の浸水が想定される区間の保全対策)

○河道の堆積土砂撤去事業

課題対応: G1-2(R1-2)

【三重県】

【主な整備内容】

令和6年度の実施内容

○堆積土砂撤去

一級河川木津川他29川

(赤川、小山川、滝川、山の田川、後黒見川、河合川、丸柱川、額田川、野田川、比自岐川、御代川、矢田川、青山川、柘植川、岩瀬川、前深瀬川、矢谷川、大谷川、宮谷川、服部川、平田川、愛田川、倉部川、平野川、折戸川、小波田川、久米川、砂川、名張川)



施工前



施工後



一級河川比自岐川

実施主体
担当部署三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所
津建設事務所R6年度
進捗状況:○

取組概要

河道内に経年的に堆積した土砂により、低下している流下能力を回復するため、河道の堆積土砂撤去を実施する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

取組による効果

河道の堆積土砂を撤去することにより河川の流下能力を回復し、流域内の治水安全度が向上する。

活用可能な制度等

○砂防堰堤の整備

課題対応: G12-1 (R3-1)

【三重県】

【主な整備内容】

石谷の1県単通常砂防事業(伊賀市中村地内)



施工状況(R6.12月時点)

実施主体
担当部署三重県県土整備部
防災砂防課
伊賀建設事務所R6年度
進捗状況: ○

取組概要

土石流による土砂災害から下流部に存在する人家、耕地、公共施設等を守ることを主たる目的として、砂防堰堤、床固等の砂防設備の整備を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

水災害の激甚化や発生頻度の増加などの事象を想定し、土石流対策を進めていく。

取組による効果

砂防堰堤等を整備することにより、人家、耕地及び道路に対する土砂災害の被害を軽減させる。

活用可能な制度等

○急傾斜地崩壊対策施設の整備

課題対応: G12-2 (R3-2)

【三重県】

【主な整備内容】

○奥馬野地区急傾斜地崩壊対策事業(伊賀市奥馬野地内)



保全対象: 避難所(ライトピアおおやまだ)

実施主体
担当部署三重県県土整備部
防災砂防課
伊賀建設事務所R6年度
進捗状況: ○

取組概要

急傾斜地崩壊危険区域内の自然がけに対し、擁壁工、排水工及び法面工等の急傾斜地崩壊防止施設の整備を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難所や要配慮者利用施設の安全確保を優先して実施する。

取組による効果

擁壁工等を整備することにより、自力避難が困難な方々に対する土砂災害の被害を軽減させる。

活用可能な制度等

〇間伐等の森林整備

課題対応: G5-2(R5-6)

【三重県】

【主な整備内容】

〇保安林総合改良事業



【施工前】



【施工後】

実施主体
担当部署三重県農林水産部
治山林道課
伊賀農林事務所R6年度
進捗状況:〇

取組概要

・手入れ不足等により過密状態となった荒廃森林において、森林整備を実施することで、山林の機能を回復し、下方人家等の保全を図る。

取組内容の工夫点・課題・留意点

・間伐木を等高線上に並べることで、降雨等により土壌の表目流出を抑制している。

取組による効果

・森林整備を実施することで樹木の生長や下層植生の繁茂を促し、降雨等に伴う土壌流出を抑制する。

活用可能な制度等

—

要配慮者利用施設における避難計画の策定及び訓練の促進

・要配慮者利用施設における避難計画の策定及び避難訓練の促進

対象施設への避難計画作成支援説明会・講習会の開催

・市町担当者向けに避難確保計画の意見交換会等を実施

課題対応: G7-5(R9-5)

【三重県】

施設管理者への説明



市町担当者への説明・意見交換

実施主体
担当部署三重県県土整備部
施設災害対策課
防災砂防課R6年度
進捗状況:〇

取組概要

防災部局が社会福祉施設の管理者を対象に開催している説明会に参加し、水防法、土砂災害防止法に基づく避難確保計画及び訓練の重要性等を説明。また、市町担当者に対しても避難確保計画の説明を行うとともに、意見交換会を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難確保計画の作成や訓練の実施が進まない場合は、その要因に応じた助言等を実施していく。

取組による効果

施設管理者や市町担当者に避難確保計画の重要性を理解していただき、計画作成及び訓練実施の進捗を図る。

活用可能な制度等

—

ソフト対策

1. 基礎調査の公表
2. 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)および土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)の指定

- ・土砂災害警戒情報の発表
- ・土砂災害情報提供システムの更新、運用
- ・土砂災害警戒区域等の指定

課題対応: G13-2(R9-8)
G13-3(R6-5)

【三重県】

土砂災害警戒情報の発表



土砂災害情報提供システムの更新、運用



システム周知ポスター



実施主体
担当部署

三重県県土整備部
防災砂防課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

三重県と津地方気象台は共同で、大雨で土砂災害発生の危険性が高まった時に土砂災害警戒情報を発表。

地域住民の避難行動や市町による避難指示等の発令を適時・適切に行っていただけるよう、「三重県土砂災害情報提供システム」を運用。

取組内容の工夫点・課題・留意点

令和6年度に二次元コードを掲載したポスターを配布し、システムに関する広報活動を行った。

取組による効果

昨年度に比べ「土砂災害情報提供システム」のアクセス数は約2.3倍に増加。

活用可能な制度等

ソフト対策

降雨予測や避難情報の提供の強化、洪水予測や水位情報の提供の強化
(危機管理型水位計や量水標等の設置、河川監視用カメラの配置、浸水や停電の恐れのある観測所において、浸水・停電対策を実施、ダム放流設備の耐水化)

○危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置

課題対応: G8-6(R9-7)

【三重県】



令和6年度の実施内容

- 簡易型河川監視カメラの設置
(服部川、河合川)

■河川状況をリアルタイムで提供



(写真:一級河川久米川)

■危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置状況(淀川水系)

	R5まで	R6	R7以降
危機管理型水位計	36箇所	—	—
簡易型河川監視カメラ	7箇所	2箇所	4箇所

実施主体
担当部署

三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

三重県の河川DX中期計画(2022~2026)に基づき、危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラを拡充し、リアルタイムの河川情報を提供する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

取組による効果

洪水時には、危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラにより切迫感のある情報をリアルタイムで提供することにより、水防活動や住民の適切な避難行動を促す。

活用可能な制度等

○土砂災害防止月間(6月)等における広報活動を実施

県広報誌による周知

県公報番組(テレビ・ラジオ)による周知

課題対応: G14-4(R9-11)

【三重県】

【主な整備内容】

県広報誌

県立図書館及び県民ホールでの展示

実施主体
担当部署三重県県土整備部
防災砂防課R6年度
進捗状況:○

取組概要

土砂災害や土砂災害警戒区域等に関する県民の意識を向上させるため、県公報番組(ラジオ)での広報活動や、県立図書館等での展示による広報を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

土砂災害防止月間に合わせて、わかりやすい広報を心掛けて実施。

取組による効果

土砂災害警戒区域等の避難につながる情報発信と土砂災害に関する危機意識の醸成が図れた。

活用可能な制度等

○町並川地下バイパス河川の整備

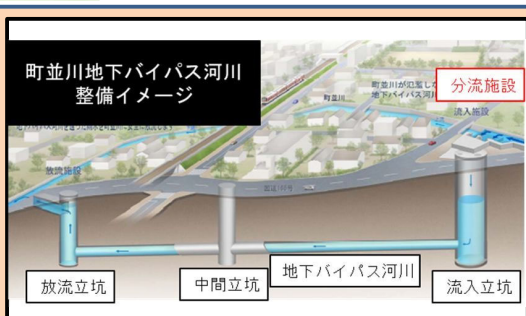
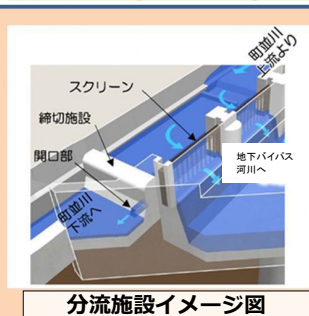
課題対応: G1-1(R1-1)

【奈良県】

【主な整備内容】



- 工事名
: 町並川 地下バイパス河川工事
(分流施設工事)
- 工期: R5.8.30~R6.8.30
- 工事延長L=25m
分水施設工 一式

実施主体
担当部署奈良県県土マネジメント部
河川整備課R6年度
進捗状況:
R7年度完了予定

取組概要

住民の方々や学識経験者の意見を踏まえて作成した「淀川水系(奈良県域)河川整備計画」に基づいた改修工事の実施を行っている。
町並川では河道拡幅が困難な箇所、地下バイパス河川の整備を行っている。

取組内容の工夫点・課題・留意点

川沿いに歴史的な町並みが形成されており、河道拡幅が困難なため、地下バイパス河川の整備で治水安全度を確保。

取組による効果

供用に向け、現在工事を行っている。
供用開始が始まれば、河川整備計画に基づく治水安全度が確保される。

活用可能な制度等

特になし。

河道内樹木の伐採や堆積土砂の除去等 (多数の家屋や重要施設等の浸水が想定される区間の保全対策)

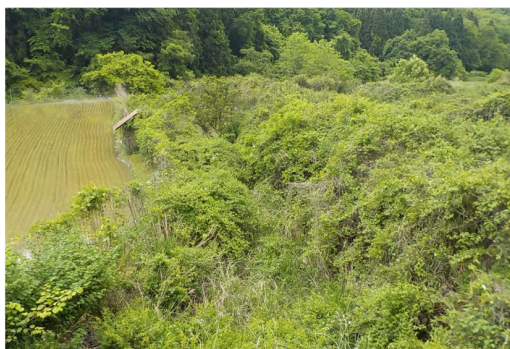
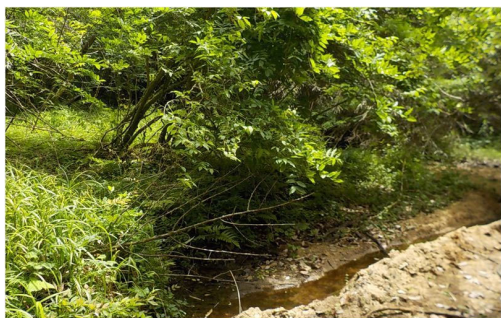
①伐木、②浚渫

課題対応: G1-2(R1-2)

【京都府】

【主な整備内容】

渋久川

実施主体
担当部署京都府山城南土木事務所
河川砂防課R6年度
進捗状況:○

取組概要

京都府管理河川の伐木、浚渫等

取組内容の工夫点・課題・留意点

作業用通路が無いため搬出が困難。

取組による効果

河川断面の確保。

活用可能な制度等

—

森林の整備・保全

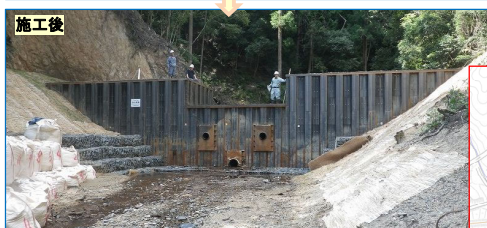
○治山対策・森林整備の実施による、 森林が有する浸透・保水機能等の維持・向上

課題対応: G5-2(R5-6)

【京都府】

【主な整備内容】

○治山事業 谷止工（南山城村北大河原欠ヶ原地内）

谷止工
(ダブルウォールダム)○森林整備事業 間伐
(南山城村童仙房葎屋外)

作業道新設

実施主体
担当部署森の保全課
林業振興課R6年度
進捗状況:○

取組概要

令和2年の豪雨により溪床の堆積土砂が崩壊し、溪床勾配の緩和及び山脚を固定するための治山ダム工を設置することにより土砂流出等の防止を図り、当該森林の持つ水源かん養機能を高度に発揮させるもの。

また、森林整備の実施により、森林が有する浸透・保水機能等の維持を行う。

取組内容の工夫点・課題・留意点

工事箇所隣接する鉄道施設への配慮等、関係機関との調整し施工を行った。

取組による効果

- ・森林の土砂流出防止機能の向上
- ・水源かん養機能の向上

活用可能な制度等

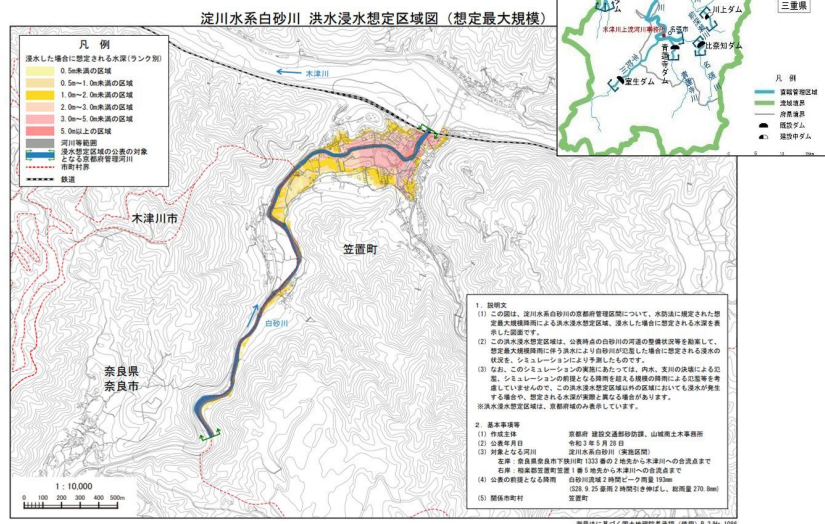
特になし

○水害リスク情報の空白域の解消

課題対応：G7-1(R7-2)

【京都府】

(実施河川)
笠置町 横川、打滝川、白砂川、布目川
南山城村 山城谷川、洪久川

実施主体
担当部署京都府建設交通部
砂防課R6年度
進捗状況:○

取組概要

R3水防法改正以前には浸水想定区域の指定対象とされていなかった河川のうち、周辺に住宅等の防護対象のあるものについて指定対象に追加された。
浸水想定区域図を作成し、公表している。

取組内容の工夫点・課題・留意点

今後、水防法に基づく浸水想定区域の指手続きを行う予定。

取組による効果

水害リスク情報の空白地帯を解消し、当該河川流域における円滑かつ迅速な避難につながる。

活用可能な制度等
特になし

○避難訓練の実施

課題対応：G7-5(R9-5)

【京都府】

【説明時の様子】



【訓練時の様子】

実施主体
担当部署京都府建設交通部
砂防課R6年度
進捗状況:○

取組概要

笠置保育所が実施した避難訓練に京都府も参加し、土砂災害の概要や土砂災害危険度の入手方法、周辺道路の異常気象時通行規制について、施設長や職員に説明した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

笠置町役場と協働で取り組み、土砂災害の危険性について府から説明するとともに、避難体制への支援について市から説明され、警戒避難体制の確認ができた。

取組による効果

避難計画に基づく訓練を実施することでより円滑かつ迅速な避難につながる。

活用可能な制度等
特になし

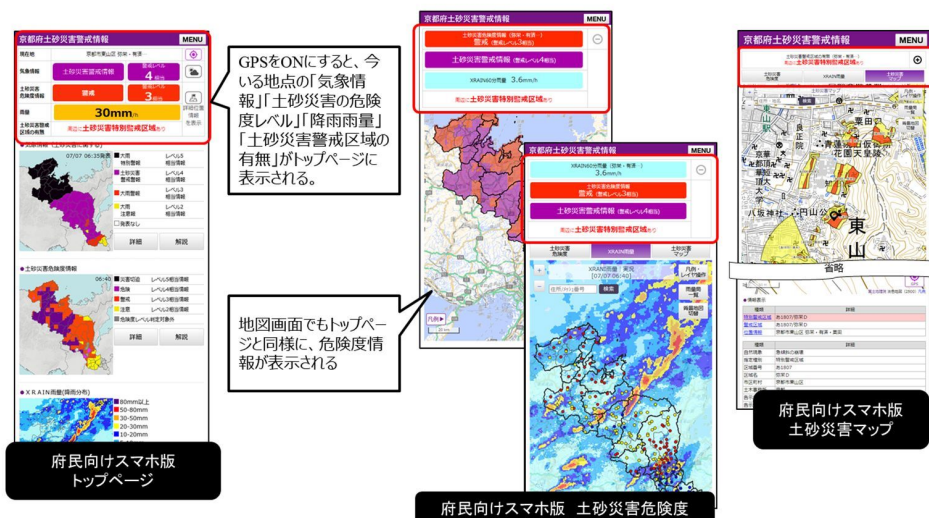
○まるごとまちごとハザードマップの整備

課題対応: G7-12(R9-13)

【京都府】

スマートフォン版位置情報を活用した危険度リスク表示

GPS機能により位置情報を取得し、現在地のリスクをHome地図画面で表示可能とした。



实施主体 担当部署

京都府建設交通部
砂防課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

土砂災害警戒情報の発信
土砂災害警戒情報システムの高度化
(継続実施)
土砂災害警戒区域の指定

取組内容の工夫点・課題・留意点

スマートフォンで情報を入手できるため、より手軽にどこでもリスク情報にアクセスできる。

取組による効果

現在地の「土砂災害の危険度レベル」、「土砂災害警戒区域の有無」などを表示することにより、自分が今いる位置での土砂災害のリスクを簡単に把握できるようになり、迅速な避難につながる。

活用可能な制度等
特になし

ソフト対策

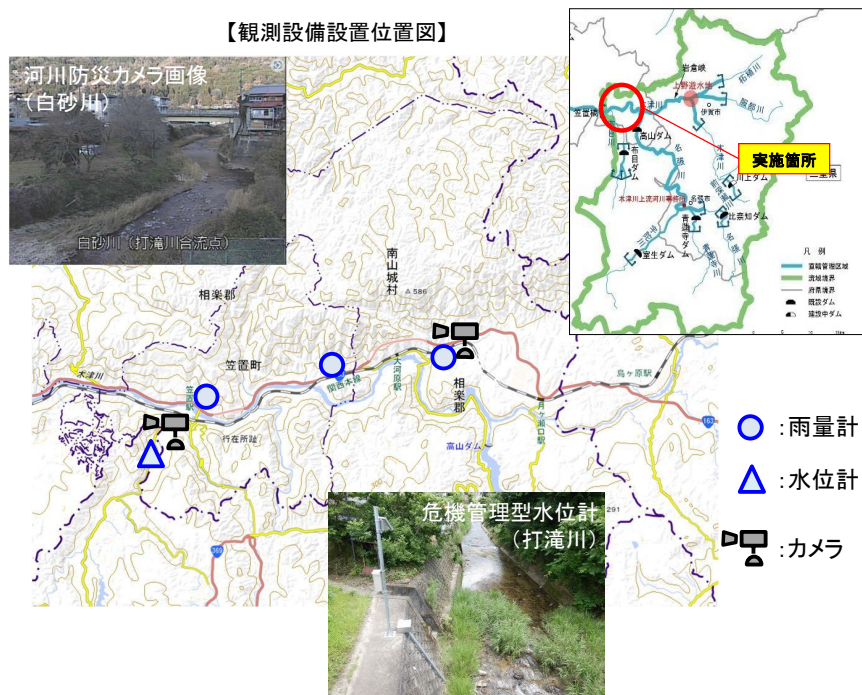
降雨予測や避難情報の提供の強化、洪水予測や水位情報の提供の強化
(危機管理型水位計や量水標等の設置、河川監視用カメラの配置、浸水や停電の
恐れのある観測所において、浸水・停電対策を実施、ダム放流設備の耐水化)

○設備(水位計・簡易カメラ・浸水センサー等)の設置、更新

課題対応: G8-6 (R9-7)

【京都府】

【観測設備設置位置図】



实施主体 担当部署

京都府建設交通部
砂防課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

観測設備を整備

雨量計	3箇所
水位計	1箇所(危機管理型)
カメラ	1箇所

取組内容の工夫点・課題・留意点

増設するには今まで以上に予算の確保が必要。

取組による効果

洪水時のリアルタイム情報を提供することにより、円滑かつ迅速な避難につながる。

活用可能な制度等
特になし

ハード対策

ダム等の洪水調節機能の向上・確保

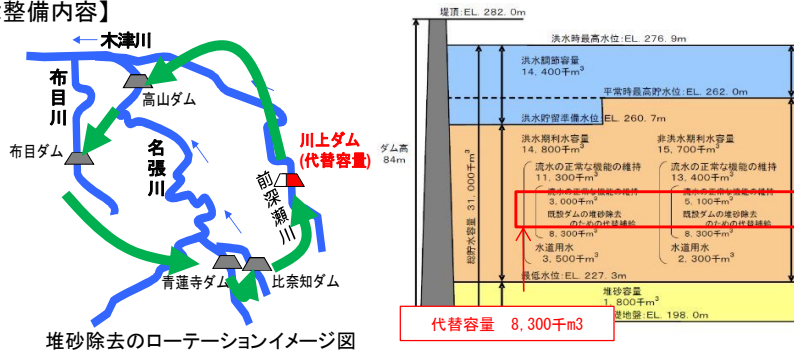
(ダム管理区間における浚渫等によって発生する建設発生土の処理・活用方法、対策後の継続的な維持管理のあり方について検討、事前放流の実施、ダム再生の検討・ダム湖の堆砂除去)

○既設ダムの堆砂除去

課題対応: G1-4(R4-2)

【水資源機構】

【主な整備内容】



高山ダム堆砂除去工事の状況



室生ダム副ダム堆積土砂除去工事の状況

実施主体 担当部署	木津川ダム総合管理所	R6年度 進捗状況:○
--------------	------------	----------------

取組概要

木津川上流ダム群(室生ダムを除く)の土砂管理について、川上ダムの代替容量を利用し、木津川上流ダム群でローテーションを組み、各ダムの貯水位を低下させ堆積土砂の陸上掘削を行うことにより、ライフサイクルコストを低減する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

堆砂除去により発生した砂は、ダム下流への土砂還元や地域貢献として公共事業への転用や民間企業との連携により有効活用を図ることとなっているが、それらを実現するための検討、調整。

取組による効果

- ・堆砂除去による貯水池内のリフレッシュ（有効容量のアップ）
- ・陸上掘削によるライフサイクルコストの低減

活用可能な制度等

—

ハード対策

ダム等の洪水調節機能の向上・確保

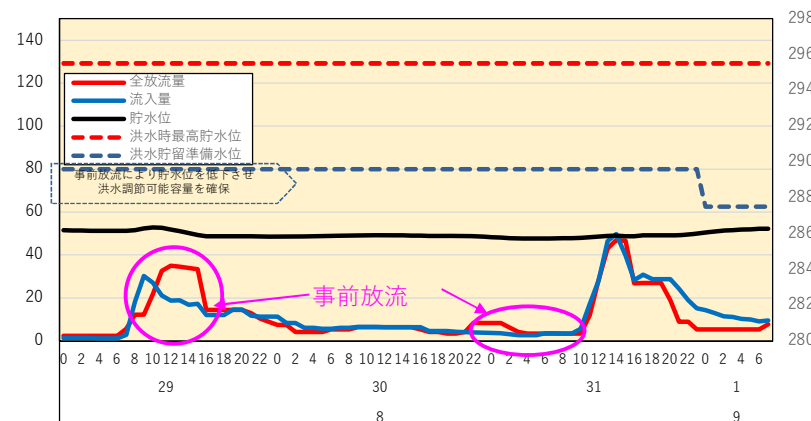
(ダム管理区間における浚渫等によって発生する建設発生土の処理・活用方法、対策後の継続的な維持管理のあり方について検討、事前放流の実施、ダム再生の検討・ダム湖の堆砂除去)

○ダムの事前放流の実施

課題対応: G1-4(R4-4)

【水資源機構】

【主な整備内容】



台風10号(R6.8)における室生ダムのハイドロ図

台風10号(R6.8)における各ダムの事前放流量等

ダム名	事前放流量	ダムの水位低下量	備考
室生ダム	345千m³	0.57m	

実施主体 担当部署	木津川ダム総合管理所	R6年度 進捗状況:○
--------------	------------	----------------

取組概要

既設5ダムにおいては、令和3年度までに治水協定に基づく事前放流実施要領を策定済み。川上ダムも試験湛水終了後に策定予定。

また、8月の台風10号の際に室生ダムにて、実施要領に従い適切に事前放流を実施した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

確実な事前放流を実施するためには、降雨予測の精度向上を図る必要がある。

取組による効果

事前放流により出水前に貯水位を低下させることが可能であり、治水機能の向上が図られる。

活用可能な制度等

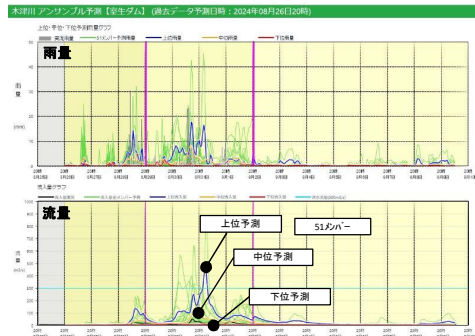
—

○予測精度の向上

課題対応: G1-4(R4-5)

【水資源機構】

【主な整備内容】



概略【至生ダム】2024年08月26日23時21分更新（過去データ表示中）

至生ダム 降雨流出予測

至生ダム	アンサンブル予測			ガイダンス予測			アンサンブル予測			アンサンブル予測		
	上位	中位	下位	上位	中位	下位	上位	中位	下位	上位	中位	下位
予測発表時刻	08月26日20時			08月26日21時			08月26日23時			08月26日20時		
最大48時間雨量	100.7mm	47.5mm	10.0mm	27.4mm	11.6mm	1.1mm	11.6mm	482.6mm	95.9mm	10.5mm	21.7mm	4.4mm
110mm/48h超過	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
270mm/48h超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
最大流入量	136.1m³/s	37.5m³/s	4.2m³/s	12.4m³/s	11.6m³/s	1.1m³/s	11.6m³/s	482.6m³/s	95.9m³/s	10.5m³/s	21.7m³/s	4.4m³/s
12m³/s超過	33 (65%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	33 (65%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)
30m³/s超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
下流 下る速 7.4m/s超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
295.0m超過(ただし書き開始)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
貯水水位	47 (92%)			1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	51 (100%)	51 (100%)	51 (100%)	51 (100%)	51 (100%)
295.0m超過(ただし書き開始)	37 (72%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	51 (100%)	51 (100%)	51 (100%)	51 (100%)	51 (100%)
295.0m超過(ただし書き開始)	33 (65%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	51 (100%)	51 (100%)	51 (100%)	51 (100%)	51 (100%)
295.0m超過(ただし書き開始)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (33%)	17 (33%)	17 (33%)	17 (33%)	17 (33%)

※「予測名の欄」にマウスを移動させると、上中下位の判定方法が表示されます。

アンサンブル予測の表示画面

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

事前放流をより効果的に行うため、長時間先降雨予測であるアンサンブル技術を導入し、事前放流の高度化（早期判断、放流量の合理化）を目指している。

取組内容の工夫点・課題・留意点

事前放流の基準降雨量の超過や洪水調節に至る雨の経験が不足しており、傾向にばらつきがあるため、引き続き事例収集に努める必要がある。

取組による効果

- ダム下流河川利用者の安全確保（少量のダム放流での対応が可能になる）
- 貯留水の有効活用（発電放流設備からの放流）

活用可能な制度等

—

ダムの防災操作や放流連絡体制の周知
(地域住民へ避難の必要性やダム警報局スピーカーの周知)

○ダムの防災操作や放流連絡体制の周知

課題対応: G7-7(R9-24)

【水資源機構】



洪水対応演習の様子 (R6.5)



青蓮寺・室生・比奈知ダム放流連絡会 (R6.5)



高山ダム放流連絡会 (R6.7)

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

洪水対応演習および住民参加型訓練を実施し、避難の必要性や警報局スピーカーの周知を行った。防災連絡会ではダム防災操作の説明、放流連絡体制の周知を行った。

取組内容の工夫点・課題・留意点

毎年繰り返し周知をすることで、ダム操作に対するより一層の理解を得ることができる。

取組による効果

事前にきちんと説明、周知を行うことで、洪水時や緊急時などもスムーズなやりとりをすることができる。

活用可能な制度等

—

ダムの防災操作や放流連絡体制の周知 (地域住民へ避難の必要性やダム警報局スピーカーの周知)

○関係機関が連携した情報伝達訓練の実施

課題対応: G7-8(R9-25)

【水資源機構】



名張市防災訓練の様子(R6.11)



名張市防災訓練の様子(R6.11)

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R6年度
進捗状況:△

取組概要

名張市が主催する防災訓練に参加

取組内容の工夫点・課題・留意点

関係自治体が主催する訓練には積極的に参加し、関係自治体との連携の強化を図る。

取組による効果

市内の浸水被害の状況及び対策について、情報共有と連携を図ることができる。

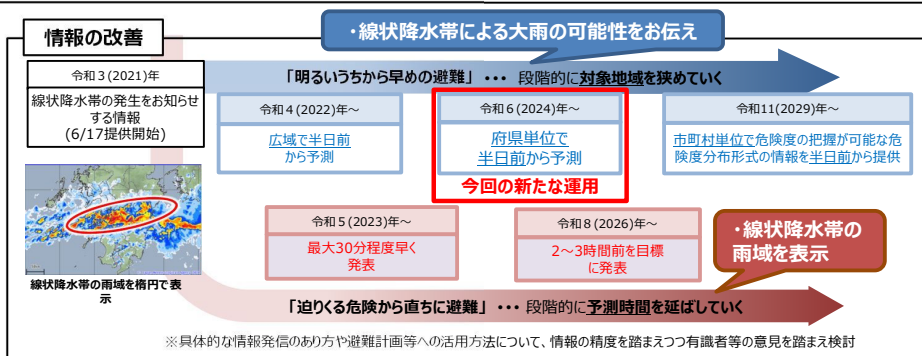
活用可能な制度等

住民の避難行動を促し、迅速な水防活動を支援するため、スマートフォンを活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信を実施

○線状降水帯に関する情報の改善

課題対応: G8-1(R8-5)

【津地方気象台・奈良地方気象台】

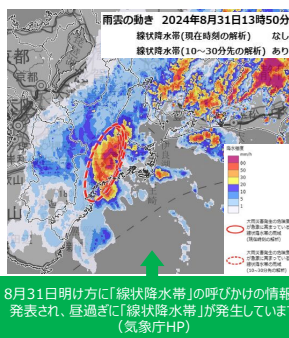
大雨と高波に関する三重県気象情報 第4号
令和5年6月2日06時01分 津地方気象台発表

(見出し) 東海地方では、2日午後から3日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。

昨年度までは広域での呼びかけでしたが、今年度から府県単位での呼びかけに変わりました

台風第10号に関する三重県気象情報 第19号
令和6年8月31日05時42分 津地方気象台発表

(見出し) 三重県では、9月1日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。



8月31日明け方に「線状降水帯」の呼びかけの情報が発表され、昼過ぎに「線状降水帯」が発生しています(気象庁HP)

実施主体
担当部署

気象庁

R6年度
進捗状況:○

取組概要

線状降水帯による大雨の可能性がある程度高いことが予想された場合、気象情報を用いて、半日程度前から府県単位で「線状降水帯」というキーワードを使って呼びかける。

取組内容の工夫点・課題・留意点

線状降水帯についての情報は、今後も段階的に、対象地域を狭めていくこと、予測時間を延ばしていくことを予定している。

取組による効果

府県単位で線状降水帯の発生予測を半日前から発表することにより、対象を絞りつつ、関係機関に線状降水帯への危機感を共有することができる。

活用可能な制度等

河川整備計画に基づく河川改修の実施

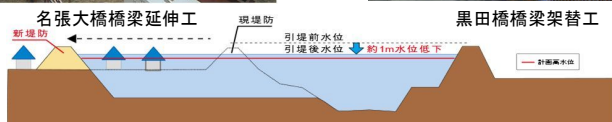
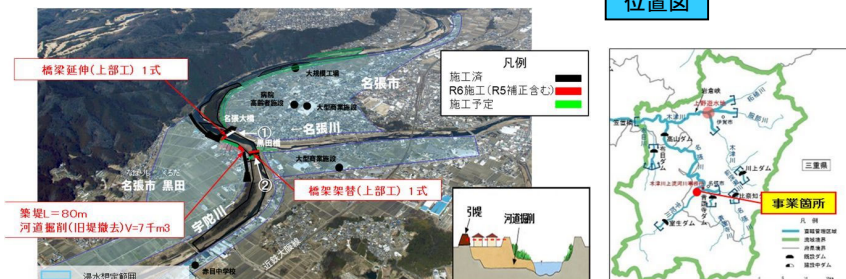
○名張川 名張かわまちづくり一体型浸水対策事業(Ⅰ期)

課題対応: G1-1 (R1-1)

名張川：名張市黒田地区／引堤河川改修（約80m）

【木津上流河川事務所】

【主な整備内容】



※引堤計画図とかわまち計画図は、現時点の計画であり、今後詳細設計等を実施することにより内容を変更する場合があります。

位置図

实施主体

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

名張市街地の浸水被害の軽減を図るため、「名張かわまちづくり」と連携して引堤及び河道掘削を推進し、安全度の向上を図る。令和6年度は名張大橋、黒田橋上部工、築堤護岸工を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

今後、気候変動による外力の増大とそれ伴う水災害の激甚化や発生頻度の増加などの事象を想定し、対策を進めていく。

取組による効果

河川整備計画で目標としている昭和28年台風13号洪水の降水量を1.1倍とした洪水に対して、名張川・宇陀川合流点付近の水位を約1m低下させ、堤防からの越水を回避し、名張市街地の浸水被害を軽減する。

活用可能な制度等

特になし。

河川整備計画に基づく河川改修の実施

○上野遊水地事業

課題対応: G1-1(R1-1)

服部川:三田地区 / 河道掘削(約20,500m³)、伊賀上野橋:仮橋上部工

【木津上流河川事務所】

【主な整備内容】



河道掘削



伊賀上野端：仮橋上部工

实施主体

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

上野遊水地、川上ダムの運用開始を受け、伊賀地域のさらなる治水安定度向上のため河道掘削を実施。令和6年度は服部川三田地区で河道掘削、伊賀上野橋仮橋上部工の施工を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

治水上の課題(内水への影響、上下流バランス、超過洪水への対応等)や維持管理、土地利用、自然環境への影響に留意が必要である。

取組による効果

河道掘削の計画的に実施することで段階的に治水安全度を向上させて浸水被害を軽減させることができる。

活用可能な制度等

特になし。

○宇陀市の大宇陀小学校で出前講座を実施

課題対応: G7-4(R8-1)

【木津上流河川事務所】

【開催概要】

○日 時: 令和6年9月9日

○参加機関: 宇陀市立大宇陀小学校(4年生33名)

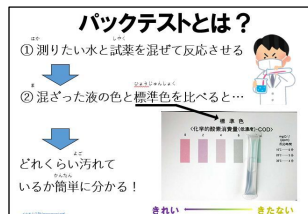
- 内 容: ①川の危険性
②川の治水・減災対策
③健全な水循環の重要性について
④簡易水質検査(パックテスト)
⑤オオサンショウウオについて



【川の危険性に関する説明資料】



【健全な水循環の重要性に関する説明資料】

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

毎年、治水・防災・環境をテーマに、木津川上流河川事務所管内の小学校で出前講座を実施している。令和6年度は大宇陀小学校で防災・環境をテーマに出前講座を開催した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

4年生の児童を対象に興味を持ってもらうよう、クイズ形式のスライドで説明を行ったり、簡易水質検査(パックテスト)を実際に体験していただき、川の水をきれいにすることの大切さを理解するよう留意した。

取組による効果

洪水の危険性及び治水対策や健全な水循環の重要性について、楽しみながら理解してもらった。

活用可能な制度等
特になし。

○宇陀市イベントで体験型防災教育を実施

課題対応: G7-4(R8-1)

【木津上流河川事務所】

【開催概要】

○日 時: 令和6年10月26, 27日

○場 所: 「うだ産フェスタ2024」
(宇陀市総合体育館)

○参加者: 延べ約600名

- 内 容: ①流域治水に関するパネル展示
②照明車展示
③TEC-FORCE体験
④土砂崩れメカニズム体験
⑤液状化現象メカニズム体験



TEC-FORCE体験の様子



土砂崩れメカニズム体験の様子

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

伊勢湾台風から65年目を機に、宇陀市が主催するイベント「うだ産フェスタ2024」にて水害や土砂災害について学べる防災教育ブースを出展。

取組内容の工夫点・課題・留意点

来年2025年は、阪神大震災から30年目であることから、本局防災室の支援により地震災害ブースも設置。

取組による効果

実際に体験していただくことで、防災について楽しく学んでいただき、命の守り方を知っていただくことができた。

活用可能な制度等
特になし。

○簡易型河川監視カメラのバッテリー更新

課題対応: G8-6(R9-7)

【木津上流河川事務所】

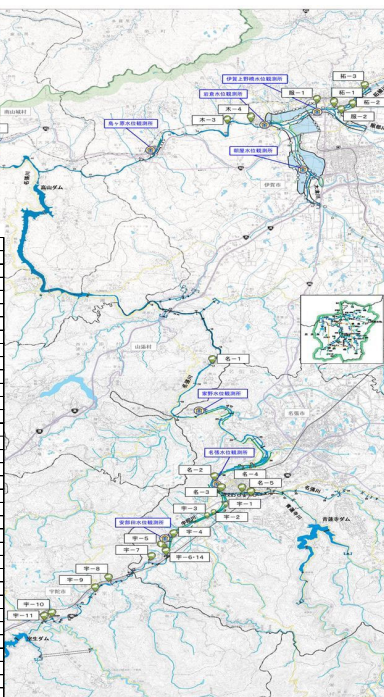
【簡易型河川監視カメラ】

令和元年度 25基
 令和2年度 8基
 令和3年度 1基
 計 34基運用

令和6年度
 バッテリー更新 34基

簡易型河川監視カメラ設置箇所一覧表

観測所名	河川	観測所	設置年度	更新年度	備考
第一	木津川	第一観測所	2019	2024	更新済
第二	木津川	第二観測所	2019	2024	更新済
第三	木津川	第三観測所	2019	2024	更新済
第四	木津川	第四観測所	2019	2024	更新済
第五	木津川	第五観測所	2019	2024	更新済
第六	木津川	第六観測所	2019	2024	更新済
第七	木津川	第七観測所	2019	2024	更新済
第八	木津川	第八観測所	2019	2024	更新済
第九	木津川	第九観測所	2019	2024	更新済
第十	木津川	第十観測所	2019	2024	更新済
第十一	木津川	第十一観測所	2019	2024	更新済
第十二	木津川	第十二観測所	2019	2024	更新済
第十三	木津川	第十三観測所	2019	2024	更新済
第十四	木津川	第十四観測所	2019	2024	更新済
第十五	木津川	第十五観測所	2019	2024	更新済
第十六	木津川	第十六観測所	2019	2024	更新済
第十七	木津川	第十七観測所	2019	2024	更新済
第十八	木津川	第十八観測所	2019	2024	更新済
第十九	木津川	第十九観測所	2019	2024	更新済
第二十	木津川	第二十観測所	2019	2024	更新済
第二十一	木津川	第二十一観測所	2019	2024	更新済
第二十二	木津川	第二十二観測所	2019	2024	更新済
第二十三	木津川	第二十三観測所	2019	2024	更新済
第二十四	木津川	第二十四観測所	2019	2024	更新済
第二十五	木津川	第二十五観測所	2019	2024	更新済

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

氾濫の危険性が高く、人家や重要施設のある箇所に「簡易型河川監視カメラ」を設置し、河川状況を確認することで、従来の水位情報に加え、リアルタイムのある洪水状況を画像として住民と共有し、適切な避難判断を促す。

取組内容の工夫点・課題・留意点

簡易型河川監視カメラは機能を限定することによりコストを低減。ソーラー電源活用で屋外に容易に設置することができる。

取組による効果

簡易型河川監視カメラは危機管理型水位計とともに、「川の防災情報」ホームページにおいて一般に公開されており、地域の方々がいち早く把握する手段として情報提供をしている。

活用可能な制度等

特になし。

住民一人一人のマイタイムライン、マイ防災マップの作成促進

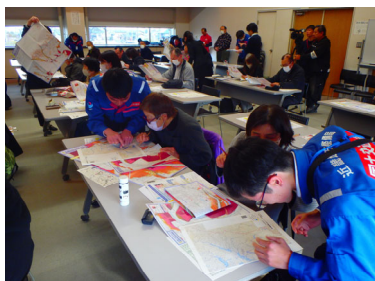
○伊賀市においてマイ・タイムライン講習会を実施

課題対応: G7-9(R9-15)

【木津上流河川事務所】

【開催概要】

日時: 令和7年2月8日(土)
 場所: 伊賀市ゆめぼりセンター2階大会議室
 参加者: 伊賀市住民 35名
 講師: 気象キャスター 親見麗菜氏
 (流域治水アンバサダー、気象予報士)
 気象キャスター 土井邦裕氏
 (流域治水アンバサダー、気象予報士、防災士)
 内容: ①「伊賀市防災・情報アプリ」の登録案内について
 ②最近の気象災害と情報について
 ③マイ・タイムライン作成講習

実施主体
担当部署

・木津川上流河川事務所
 ・伊賀市

R6年度
進捗状況:○

取組概要

近年の水害傾向や地域の特徴など知識を得ながら、自分自身の家族構成や生活環境にあわせた、オリジナルの「マイ・タイムライン」の作り方や地域に広めるためのポイントなどを確認することを目的として講習会を開催。

取組内容の工夫点・課題・留意点

国土交通省は「流域治水」の情報発信を狙い、テレビやラジオに出演する気象キャスター35人を「流域治水アンバサダー」に委嘱しており、今回、その中から講師をしていただいた。

取組による効果

「マイ・タイムライン」をつくっておくことで自分の住んでいる地域の災害リスクや避難所の場所を把握することができ、防災力の向上に繋がった。受講者の中には、地区の防災リーダーなどが含まれており、地区の住民を対象としたマイ・タイムライン作成を自ら進めたいという声も聞かれた。リーダーの育成や地域防災の更なる活性化にも寄与できると期待できる。

活用可能な制度等

特になし

○構成機関を対象とした重要水防箇所合同点検の実施

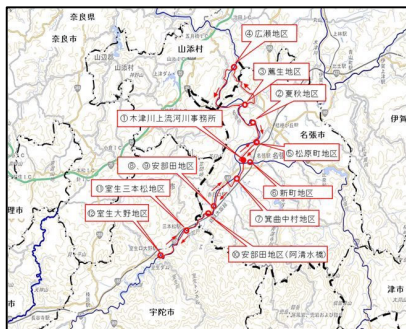
課題対応：G9-5(R9-16)

【木津上流河川事務所】

【開催概要】

- 日 時：①令和6年8月21日(名張川筋)
②令和6年9月19日(木津川筋)
- 参加機関：①名張市、山添村、伊賀建設事務所、奈良地方気象台
②伊賀市、笠置町、伊賀建設事務所、津地方気象台、
木津川ダム総合管理所

重要水防箇所合同点検ルート(名張川筋)



重要水防箇所合同点検の様子

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

重要水防箇所とは洪水時に危険が予想され、重点的に巡視点検が必要な箇所を示したもので、関係者が予め熟知しておくことでより早く適切な水防活動を行うため、合同で現地確認を実施した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

今回の合同点検にて最新の重要水防箇所に基づく洪水に対しリスクの高い 区間を現地で確認し、洪水時の越水対策として、土のう等による水防活動を行う必要性を共通認識しました。

取組による効果

合同点検を実施することで、関係機関が連携しながら洪水時の水防活動や住民避難活動について再認識し本番に備えることができる。

活用可能な制度等

特になし

○伊賀線第一陸閘の操作訓練を実施

課題対応：G9-4(R9-17)

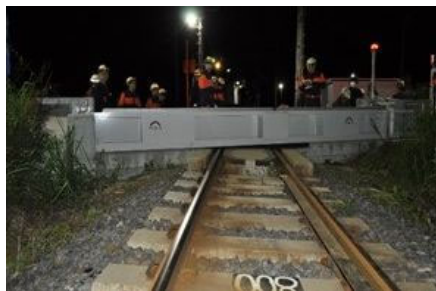
【木津上流河川事務所】

【開催概要】

- 日 時：令和6年5月25, 26日
23:00~1:30
- 場 所：伊賀鉄道新居駅
- 参加者：木津川上流河川事務所 6名
伊賀市 4名
伊賀鉄道株式会社 1名
伊賀市消防団 47名
その他 報道関係 2社



【陸閘閉鎖】

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

伊賀線第一陸閘は、新居(にい)遊水地(上野遊水地の4つある遊水地の一つ)の周囲堤と伊賀鉄道が交差する箇所に設置した遊水地内に流入した洪水流を遊水地の外に氾濫することを防ぐ施設です。

国、伊賀市、伊賀鉄道株式会社、伊賀市消防団と連携した操作訓練を実施しました。

取組内容の工夫点・課題・留意点

運用を開始した令和4年度は、伊賀鉄道を一時的に運休し、日中に行いましたが、昨年度からは、鉄道利用者に配慮し、伊賀鉄道の運行が終了した夜間に実施しました。

取組による効果

関係機関が連携した操作訓練を行うことで、役割や手順など必要なことをそれぞれが確認し、本番に備えることができました。

活用可能な制度等

特になし

○笠置町にて「まるごとまちごとハザードマップ」標識の除幕式を実施

課題対応：G7-12(R9-13)

【木津上流河川事務所】

【日 時】 令和7年2月5日(水)10:00～

【場 所】 笠置町立笠置保育所
(京都府相楽郡笠置町有市羽根田)

【主 催】 木津川上流河川事務所、笠置町

【参加者】 笠置町(笠置町長 他2名)
笠置保育所(所長)
近畿地方整備局(水災害予報センター長)
木津川上流河川事務所(所長 他4名)

【設置状況】

実施主体
担当部署・木津川上流河川事務所
・笠置町R6年度
進捗状況:○

取組概要

市町村等と連携して水防災意識社会の再構築に取り組んでおり、生活空間である“まちなか”に想定される浸水深等を標識として設置する「まるごとまちごとハザードマップ」の取組を推進している。このたび、京都府域で初となる浸水深標識を笠置町に設置。

取組内容の工夫点・課題・留意点

最大浸水深の位置を目視できるよう標識を工夫。

取組による効果

「まるごとまちごとハザードマップ」の取り組みが、笠置町にお住まいの皆さまの防災意識の向上の一役に繋がる。

活用可能な制度等

特になし

○砂防堰堤の整備

課題対応：G12-1(R3-1)

【紀伊山系砂防事務所】

【主な整備内容】

坂ノ下第3
砂防堰堤
(三重県名張市)

年度当初(令和6年4月)



現在(令和6年12月)



大野砂防堰堤
(奈良県宇陀市)

年度当初(令和6年4月)



現在(令和6年12月)

実施主体
担当部署紀伊山系砂防事務所
工務課R6年度
進捗状況:○

取組概要

木津川水系における直轄砂防事業では、昭和34年9月の伊勢湾台風をはじめ、台風や集中豪雨等により山腹崩壊や土石流災害が発生しており、継続して砂防施設を整備している。

さらに、近年、全国で大きな被害をもたらしている土砂・洪水氾濫へ対応するための、施設整備を進めるほか、施設の適切な状況把握に基づく補修を推進。

取組内容の工夫点・課題・留意点

昨年度完成した三本松砂防堰堤について、一般の方により砂防施設に関心を持っていただくことを目的に、砂防カードを作成。

取組による効果

木津川水系における土砂流出に起因する土砂・洪水氾濫被害および土石流・流木被害から国民の生命・財産および重要交通網等の社会基盤の保全を図る。

活用可能な制度等

特になし

○宇陀市の小学校で出前講座を実施

課題対応: G14-4(R9-11)

【紀伊山系砂防事務所】

【主な整備内容】

▼土砂災害について学んだあと…



映像を用いた土砂災害についての授業



模型を使って砂防堰堤の仕組みを解説



ハザードマップで自分の住んでる場所を確認

<開催日> 令和6年10月17日(木) 13:15～14:40
 <開催場所> 室生小学校 多目的室(奈良県宇陀市室生大野1912)
 室生オートキャンプ場(奈良県宇陀市室生大野3849)
 <参加者> 室生小学校4年生 計21名

▼災害の時に活躍する車両たちを実際に見て触れて体験しました！



対策本部車



排水ポンプ車



照明車

実施主体
担当部署宇陀市建設課
紀伊山系砂防事務所
調査課
近畿技術事務所R6年度
進捗状況:○

取組概要

宇陀市建設課および近畿技術事務所と合同で、室生小学校の生徒を対象に、土砂災害及び防災についての出前講座を開催

取組内容の工夫点・課題・留意点

ハザードマップを使って、避難所と自宅の位置、警戒区域の確認や模型を使った砂防堰堤の仕組みや災害時に活躍する車両展示など、子供達ができるだけ関心を持てるように説明を行った。

取組による効果

自治体と連携し、小学校等で防災に関する出前講座を行うことで、土砂災害について自分事化し、防災意識の向上につなげる。

活用可能な制度等

特になし